

ニューズレター 第3号 1995年6月1日発行

フランス語学会ニューズレター第3号をお届けします。新しい記事も加えて、会員の皆様とのコミュニケーションの場として、ますます充実したものにしたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

1. 事務局からのお知らせ

(1) 会費納入について

昨年の会費値上げにつきましては、会員の皆様のご協力に感謝しております。しかしながら昨年1月の郵便料金の値上げにより、苦しい台所事情は相変わらずです。まだ会費を納入していない方は、ぜひ納入して下さいますようお願いいたします。

送金は、個人の会費の場合郵便振替のみ受付けています。銀行には振り込まないで下さい(郵便振替口座番号 00160-6-56308)。

なお、これまでは未納入の方々にもできる限り学会誌(BELF)をお送りするようにはしておりましたが、上のような事情により、2年以上の会費滞納者にはお送りしないことになりました。

(すでに実施していたのですが、不徹底だったので、今回あらためて確認しました) また、4年間会費の納入のない方は、退会扱いとなりますのでご注意下さい。

(2) 住所変更などについて

住所や所属機関の変更があった場合には、ご面倒でもなるべく早く事務局にお知らせ下さいますようお願いいたします、遅れますと、例会通知や講演会などの連絡が転送によって遅れたり、届かないこととなります。

会費送金のついでに振替用紙などに新住所を書く場合は、変更がある旨、通信欄に書き添えて下さると助かります。

(3) 例会通知について

例会通知は、原則として、はがきをお送って下さった方だけに送りしております。通知をご希望の方は、官製はがきにご自分の住所・氏名を表書きしたものを10枚ほど(約2年分)、下記住所までお送り下さい。 192-03 八王子市南大沢1の1

東京都立大学人文学部仏文学専攻内

日本フランス語学会事務局

ご自分の宛て名は、○○○「行」とせず、○○○「様」として下さい。当方の発送の際の手間が軽減されます。

(4) 編集委員の交替

本年度は編集委員のうち、大久保伸子、大野晃彦、敦賀陽一郎、古川直世の4名が辞任し、新たに阿部宏(東北大学)、曾我祐典(関西学院大学)、France Dhorne(青山学院大学)の3名が加わり、坂原茂(東京大学)が復帰することになりました。今後とも毎年少しずつ編集委員は交替していく予定です。

(5) その他

学会では、寄贈があった論文は、『フランス語学研究』巻末の「寄贈論文目録」にタイトルを掲載しています。過去3~4年でお書きになったものがありましたら、事務局宛ご寄贈をお願

いします。

また、「修士論文目録」という欄を設けています。ご自分の大学や、ご存じの大学でフランス語学で書かれた修士論文がありましたら、執筆者の氏名・タイトル・大学名・年度をお知らせください。これも過去3～4年のものを対象とします。

事務局が筑波大から都立大に移転し1年が過ぎました。その間、引き継ぎの不便や仕事への不慣れのため、各所にご迷惑をおかけしたかと思えます。これからもまだいろいろな問題が生じる可能性があります。何か疑問が生じた場合には、いつでも事務局までお問い合わせ下さい。
(石野 好一)

2. 例 会 案 内

7月以降の例会の予定は以下のとおりです（変更の可能性もあり、タイトルも仮題です）。11月を除いて上智大学で3時～6時に開かれます。

7月8日（土）

秋廣尚恵（東京外国語大学・院） 「直接目的代名詞について」

西村牧夫（西南学院大学） 「間接目的語 lui, leur, y について」

9月30日（土）

塩田明子（東京外国語大学・院） 「半過去について」

佐藤正明（東北大学） 「関係節の接続法について」

10月21日（土）

東郷雄二（京都大学） 「心理動詞と反対格仮説について」

他1名未定

11月下旬 京都で開催

平塚 徹（京都産業大学） 「コピュラ文における倒置」

他1名未定

12月16日（土）

大木充（京都大学） 「フォーカスを表わすイントネーションとジェスチャーについて」

春木仁孝（大阪大学） 「半過去再考」

例会案内は事務局にはがきをお預けになった方に通知を発送しています。『月刊言語』、『ふらんす』にも案内を掲載していますので、ご参照ください。またこれら雑誌案内に必要ですので、例会発表者は発表の3ヶ月前にタイトル（仮題でも可）を事務局にお伝えください。

1996年度例会発表者を募集しています。希望者はお近くの編集委員、または事務局までお申し出ください。

3. 運営・企画担当委員より

1994年6月で関東の運営・企画担当が交替し、青木・川口・古石の3名となりました。なお関西では東郷・春木が担当しています。

運営・企画では、例会・シンポジウム・パネルディスカッションなどをオーガナイズします。例会については『フランス語学研究』の「例会報告」を見ていただくことにして、ここではその他の活動をご紹介します。

春のフランス文学会のおりに、シンポジウム「変動の中のフランス語—社会・歴史・教育」（関東企画）を行い、フランス語学会の会員ばかりでなく、多くの方が参加して下さいました。本年度の文学会の際には「教科書文法を問い直す」（関西企画）というテーマを予定しています。

パネルディスカッションは定期的なものではありませんが、昨年度は7月に「比較と程度表現をめぐって」という題で行われました。パネルディスカッションでは1つのテーマについて3人ぐらいのパネリストが比較的短い発表をして、続いて参加者を交えて討論が行われます。

残念ながら本年度は予定がありませんが、1996年度に向けて、アイデアをお持ちの方はご連絡ください。

海外研究者の特別講演は、昨年は4月にR. GRUNIG氏と夫人のB.-N. GRUNIG氏お二人の講演について、6月にはN. RUWET氏の発表を聞くことができました。本年度はF. CORBLIN氏の特別発表が10月初めに予定されています。また11月にはA. CULIOLI氏が来日されますが、特別発表が実現できればと考えています。

例会発表にはできるだけ多くの会員の方の発表をお願いしたいと思います。学会の研究活動が少数の分野にかたよるのを避けることは大切で、既成の枠組みに納まらないテーマについても話題にさせていただきたく、そのためにも若い方の発表は歓迎です。また面白い論文に出会った時には、例会でその紹介やコメントをして頂きたいと思います。お気軽にお近くの編集委員にご連絡ください。
(川口 順二)

4. 編集責任者だより

世情不安定の日本にも、初夏が巡ってきました。

『フランス語学研究』第29号をお届けいたします。本号より、本誌の印刷はフロッピー入稿による印刷に変わりました。はじめてのフロッピー入稿ということで多少不安がありましたが、締め切り超過は1件もなく、新しい投稿規定と執筆要項をよく守って原稿作成していただき、編集作業は予想よりはるかにスムーズに進みました。

編集責任者は、事務局と企画・運営担当を始めとする編集委員会の協力を得て年間を通して活動し、「論文」から「新刊紹介」にいたるまで種々の原稿がバランス良く集まるよう、例会等の活動を足場に会員の方々に働きかけていきます。時として息切れしそうなようになった責任者を、多くの会員の方が励ましや助言によって、また、原稿を書いて下さることによって支えて下さいました。心からお礼申し上げます。

また、本号から編集方針として「論文」の掲載本数をできるだけ増やす方向で調整することになりました。編集委員会による投稿原稿の査読方法を、これまで以上に弾力的かつ柔軟なものにし、論文の枚数を6～10枚（1頁40字×40字＝1600字）と幅を持たせ、掲載の幅が広がるようにしました。なお「研究ノート」は短く気軽に書ける場として存続させることになりました。

本学会の会員の方々はフランス言語学の他に、文学・教育・文化・社会等さまざまな角度からフランスやフランス語に興味を持っておられます。そうした会員の幅広い関心に応えるべく、仲間内にしか通じない不必要に難解な論議に陥らないよう気をつけながら、会員の知見が広く分かたれる雑誌づくりを目指したいと思います。ご意見・ご提案等ございましたら是非事務局までお寄せ下さい。会員の方々の一層のご参加、ご協力をお願いいたします。

(29号編集責任者 藤田知子)

フランス語学が研究できる大学(院)案内

前号に引き続き、フランス語学が研究できる大学・大学院を紹介するコーナーです。今回は筑波大学と大阪大学を紹介します。

～ ～ ～ ～ ～

(1) 筑波大学文芸・言語学系

筑波大学大学院の特徴は、博士課程5年間一貫教育にあります。研究科は「哲学・思想」、「歴史・人類学」、「文芸・言語」研究科など文系・理系あわせて19の研究科があります。フランス語学を専攻できるのは、文芸・言語研究科です。文芸・言語研究科は主専攻によって、文学・各国文学・言語学に別れ、さらに各主専攻の中に専門コースがあります。例えばフランス文学を専攻する場合は、各国文学の中のフランス文学を専攻することになります。フランス語学は言語学主専攻の中のフランス語学コースを選択することになります。言語学主専攻の中には、フランス語学の他に、英語・日本語・中国語・応用言語・一般言語学があります。

フランス語学コースのスタッフは古川直世と青木三郎の2人です。文芸・言語研究科の言語学はどのコースも活発に研究会を開いているので、専門性を高めながら、同時に自己の専門の殻に閉じこもることなく、広く言語研究の一つとしてのフランス語を研究できると思います。

月例でフランス語学の研究会「語楽会」を開き、教官・院生で研究発表を行い、議論をしたり、またフランスからすでにKLEIBER氏、FRANCKEL氏、PAILLARD氏などを招いて、シンポジウムをするなど、フランスの研究者とも実質的な研究交流を続けています。(今秋はCORBLIN氏が来筑する予定です)

なお大学院の入学試験は毎年2月に行われます。過去の試験問題は公表されていますので、筑波大学文芸・言語学系事務局にて閲覧・複写ができます。(青木 三郎)

～ ～ ～ ～

(2) 大阪大学言語文化研究科

大阪大学には教養段階の外国語を教える教官を中心とし、言語工学部門、言語実験部門、言語文化部門の3研究部門を加えて、既に言語文化部が存在していましたが、この言語文化部を基に、独立研究科として言語文化研究科が発足して7年になります。講座名や科目名は最近の教養部改組に伴う新学部や新研究科の常として、何のこともやらさっぱりわからないものが多いので特に記しませんが、5講座で3つのコースに分かれています。入学後はいずれかのコースに所属することになりますが、どのコースに属しても言語研究は可能です。スタッフには様々な傾向の言語研究者がいて、言語学関係の講義・演習も数多くあり、かなり自由に色々な研究をすることができます。ただし、特にフランス語研究だけを対象とした授業は残念ながらありませんが、フランス語研究関係のスタッフとしては、春木・三藤・井元の3人が言語文化研究科・言語文化部に所属しています。(将来的にはフランス語研究専門の授業ができる可能性があります)現在、フランス語研究をしている院生は3人、院生全体の数はおよそ百人で、そのうちのかなりの人数がなんらかの形で言語研究をしており、研究会や読書会も盛んです。6階建ての研究科の建物も完成し、院生室を始め、音声学関係の実験設備や、コンピュータ、衛星放送設備なども充実しているのが特徴で、理科系出身のスタッフやコンピュータに強いスタッフも多く、その方面の授業もかなりあります。当研究科は歴史が浅いため、まだまだ足りないことも多いのですが、裏返せば伝統にとらわれない自由な雰囲気があります。言語文化部・研究科のスタッフの平均年齢も比較的若く、スタッフと院生の交流も気さくに行われています。

現在、フランス語研究専門の授業はないため、学部である程度フランス語についての言語学的知識を勉強していない人は、入学後、自分でかなりその部分の勉強をしなければなりません。従って、大学院からフランス語研究を始めようとする人には原則として言語文化部は向いていません。逆に、フランス語研究の基礎がある人は、フランス語以外の言語を研究している人とも日常的に交流できるため、意欲さえあれば、視野を広げながら自らの研究を進めることができます。今後とも、フランス語研究の基礎的訓練を受けたことがあり、一般的な視野からフランス語を研究したいという意欲のある人の入学を期待しています。入学試験は8月と2月の2回です。問い合わせは、豊中市待兼山1番8号 大阪大学言語文化研究科事務室まで。

(春木 仁孝)

研究会・読書会案内

研究会や読書会の案内コーナーです。このコーナーに情報を載せたい方がおられましたら、お近くの編集委員までお知らせください。

～ ～ ～ ～

「フランス言語学を一緒に勉強する会」

毎月原則として第2土曜日3時～6時に慶應義塾大学(三田)で勉強会を開いています。今後の予定は次のようになっています。

6月24日 佐藤淳一(筑波大学・院)

「終了相表現の動詞句」

7月15日 中尾和美(東京外語大学・院)

「定冠詞について」

場所は慶応大学三田旧図書館小会議室です。後期の日程は未定ですが、渡辺淳一(筑波大学・院)、青木三郎(筑波大学)、川口順二(慶応大学)各氏が発表を予定しています。気軽な情報交換と耳学問の場として世代を問わず是非ご参加下さい。問い合わせは世話人(川口順二・藤田

知子)までどうぞ。

～ ～ ～ ～ ～

「関西フランス語学研究会」

原則として毎月第3土曜日の午後、関西でフランス語学を勉強する大学院生と教員が、大阪日仏センターで例会を開いています。発足当時は読書会形式だったのですが、現在では気軽な発表形式で行なっています。例会の案内はがきを希望される方は、大阪私立大学文学部仏文研究室 福島祥行 (558 大阪市住吉区杉本町 3-3-138)までお申し出ください。

移転前の上本町にあった大阪外国語大学の屋上のプレハブ教室で N.Ruwet : *Theorie syntaxique et syntaxe du francais* の読書会から始まったこの会も、今年で20年目を迎えました。全員学生だった発足当時からの参加者は、みんないい歳になり、かわって関西の若い大学院生の人たちが会を支えてくれるようになりました。盛会のときは20名を越す人数になることもあります。

20年目の今年は節目にあたりますので、11月に京都で開催予定の学会の例会の折りにあわせて行われる有志による談話会で、統一テーマによる Colloque を計画しています。ご期待ください。

海外大学言語学事情

新企画として、最近海外留学から帰国された方々に、ご自分が学んだ大学の言語学事情を報告していただきます。初回は Aix-en-Provence 大学です。

～ ～ ～ ～ ～

Aix-en-Provence 第一大学には、言語学関係の学科として、言語科学科 (Sciences du langage)、クレオール・フランス語圏学科 (Etudes creoles et francophones)、音声学科 (Phonetique experimentale, fonctionnelle et applique)がある。

言語科学科主任で、一般言語学担当の Christian TOURATIER は、独自の文法理論を主張している。また情報科学に関心を持ち、言語の機械処理も扱っている。

フランス語学担当の Claire BLANCHE-BENVENISTE は、統語論においては *approche pronominale* という方法論を推進する一方、口語フランス語の分析も精力的に行っている。学生に、主に学位論文のために、口語フランス語のデータを採取・転写させており、大量のコーパスを蓄積している。このコーパスは公開されている。当セクションでは、文法研究に止まらず、失語症、書記法の歴史や習得等、多岐に亘る分野の研究が行われており、セミナーでも様々な問題が取り上げられる。

その他の主なスタッフは、A. QUEFFELEC : フランス語史、アフリカにおけるフランス語の変異。R.VION : コミュニケーション論。J.GARDE-TAMINE : 文体論 (隠喩)。

クレオール・フランス語圏学科主任の Robert CHAUDENSON は、特にレユニオン語の研究に基づいて、フランス語クレオールは、ピジンから発生したものでなく、フランス人入植者の口語フランス語が奴隷によって習得され、それがフランス本土のように言語規範の拘束を受けることなく自然に言語変化したものであるという興味深い説を主張している。また、アフリカの多言語使用国家の社会言語学的状況にも多大な関心を寄せている。

音声学科主任は、A.DI CRISTOで、D. HIRST とともに、特に韻律論に興味を持っているようである。
(平塚 徹)

フランス政府給費留学生試験について

留学を考えている大学院生の方々には関心の高いフランス政府の給費留学生試験の情報です。昨年の試験に合格し、今年の秋から Pairs VIIIに留学する京都大学の金子さんに、試験の様子を報告していただきます。

～ ～ ～ ～ ～

フランス政府給費留学生試験は、例年9月中頃に、東京・京都・福岡で行われる一次試験と、11月上旬に東京で行われる口頭面接による二次試験からなります。一次試験では、3時間の dissertation と1時間の dictee、及び1時間半の theme 又は version の試験が行われます。dissertation の sujet は、過去数年間は、言語と文化の関係や、langue / parole の区別など、割合一般的な観

点から問うものが多かったのですが、昨年は「文法性について」というかなり個別的な問題でした。また5～6年 version が続いていたのですが、昨年久々に theme が出題され、『ノルウェイの森』の一節を訳せという問題でした。二次試験では、フランス語と日本語による各々15分程度の面接が行われます。どちらの面接も、まず自分の過去の研究内容と留学先での研究計画について5,6分程度で発表して、その後面接官の質問に答えるという形式になっています。面接官に言語学の専門家がないこともあるので、自分の研究の意義について、違う分野の人でも納得できる説明を準備しておく必要があります。(金子 真)

☆編集後記

この号から、担当者が変わりました。また、言語学を学べるフランスの大学案内と、留学生試験に関する記事が新たに登場しました。これで、「単なるお知らせだけに終わらないニューズレターに育ってほしい」という前任者の悲願は少しは達成されたでしょうか。今後ともこのような欄を設けていこうと思っています。どうか情報の提供をよろしくお願い致します。前号で予告しました「特別例会講演者インタビュー」は今回は実現しませんでした。次号には掲載できるように頑張ります。(M.O.)

☆阪神大震災義援金のお願い

阪神大震災はフランス語学会の会員の方々にも、大きな被害を及ぼしました。被害にあわれた会員各位には、心よりお見舞い申し上げます。

被害にあわれた方々への支援活動が、先に古石篤子さんを中心になされましたが、今回は「日本フランス語学会」として義援金を募ることになりました。この趣旨に賛同していただける方は、7月14日(金)までに、下記の郵便振替口座までお振り込みいただければ幸いです。

口座番号 : 00140-7-24232

口座名称 : 阪神震災義援・日本フランス語学会

集まった義援金は、語学会から被害にあわれた会員にお渡しすることになっています。会員皆様方のご協力をお願いいたします。